

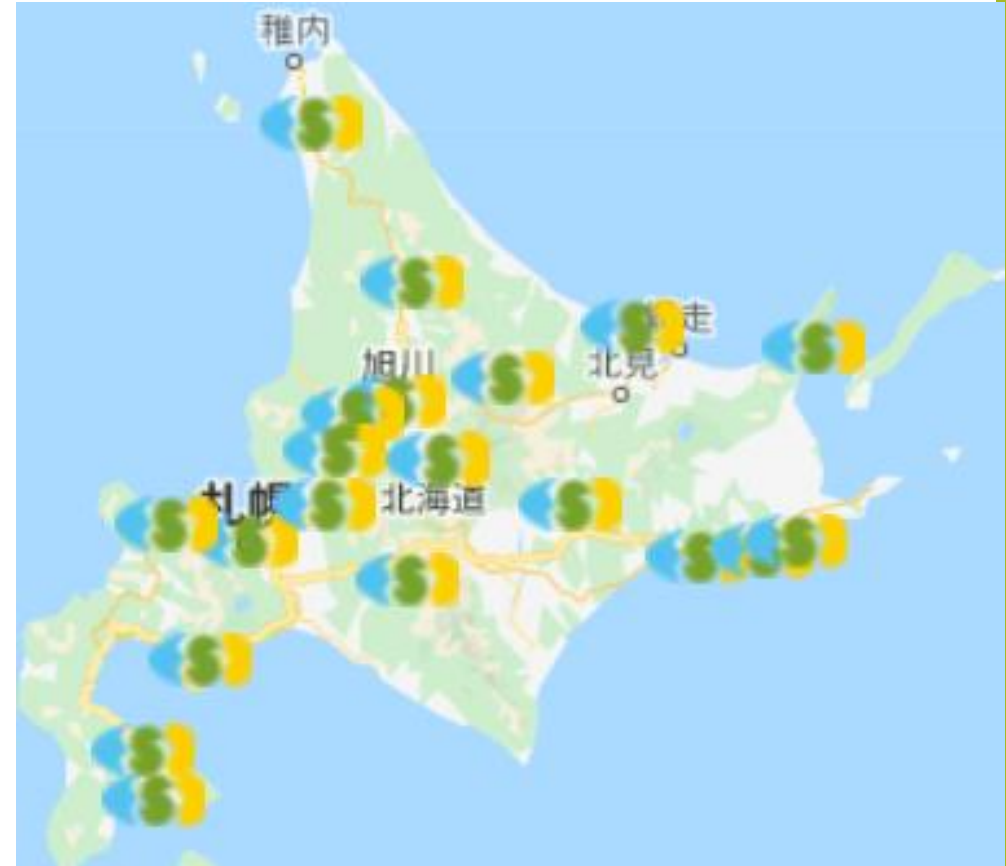
新型コロナウイルス感染拡大に伴う 地域ESD拠点への影響・対応に関する ヒアリング調査報告

EPO北海道 小路

地域ESD拠点ヒアリング

・ 地域ESD拠点とは
さまざまな主体が地域や社会の課題解決に関する学びや活動に取り組む学校、社会教育の現場のESDを支援・推進する組織・団体
道内19か所が登録されている
(調査対象は18か所)

- ・ 道立・国立宿泊型研修施設
- ・ ジオパーク
- ・ 認定NPO法人サロベツ・エコ・ネットワーク
- ・ NPO法人旭川NPOサポートセンター
- ・ 羅臼町教育委員会



調査概要

時期：7月～9月中旬

- ①地域ESD拠点における新型コロナウイルス感染拡大の影響について
 - ・2020年3～6月の地域ESD拠点の動き
 - ・現在、困っていることや悩んでいること
 - ・今後の方向性

- ②今後の地域や社会等の変化について
 - ・地域や社会等における変化、想定される変化
 - ・地域ESD拠点や地方ESD活動支援センター、ESD推進ネットワークに期待されること

本日の内容

ヒアリングで聞かれた、

- ・ 地域ESD拠点が課題に感じていること
- ・ 行った/行いたい対処
- ・ 調査の考察

地域ESD拠点が課題に感じていること

- 対応判断の情報源がない
 - 開館、閉館判断がしづらかった
 - 道や国のガイドラインにどこまで対応するか悩みどころ
- オンラインでできることに限りを感じる
 - 職員のモチベーションを保つのが大変だった
 - 特に学校教育分野で、できることが減った
- 収益減
 - 予約がない、来館者数が昨年から8割減った
 - オンラインのイベントだとお金をとりづらい

行った/行いたい対処

- ガイドラインについて
 - 国、道だけでなく類似施設の状況も参考にした
- 展示について
 - ハンズオンの展示は行っていない。
 - 屋外での直接体験ができるようビンゴゲームを作成した
- イベントの開催について
 - 参加者の同意書、検温、消毒を行っている
 - セルフガイディングに必要な道具を貸し出したい

調査の考察

(1) 地域差の存在

→地域による警戒感の違いが拠点の対応にも影響している可能性もある。正しいリスクの認知と適切な対策に関する知見の集約と共有が必要

(2) 参加型体験学習、活動の再評価

→中長期的な見通しや目標は立てづらいが、地域において本当に必要なことや自然の価値、大事にすべきつながり等を見直す時間・機会となっている

調査の考察

(3) 情報共有ニーズ

- 非常時の判断根拠となる情報の入手のために、地域や分野ごとの情報共有の仕組みを形成・維持していくこと
- 地域ESD拠点、地域のステークホルダー国や道を含む関係行政機関の有効なプラットフォーム機能の強化が必要

ご清聴ありがとうございました

